

## J R 東海労20年の闘いを教訓に、組織拡大を実現するための特別決議

御用組合への道を拒否し、「東海の地に労働運動の灯を消すな」を合い言葉に、J R 東海労を結成し20年を迎える。止むことのない弾圧の嵐の中、「J R 東海労など一年でぶっ潰す」と豪語した葛西と真正面から闘い続け、今、我々はJ R 東海の当たり前の労働組合として存在している。結成20年を全組合員、家族、OBで喜び合おうではないか。

葛西労政との闘いは、強権的労務管理・労働組合破壊に抗する闘いであり、真の安全確立を求める闘いである。コストダウンと生産性向上により利潤を追求するのが資本の論理だ。そのために「命令と服従」「規律と忠誠心」の労務管理が絶対条件となるのだ。

シンデレラエクスプレス事故、「のぞみ」号バラスト跳ね上げ事故、三島駅乗客死亡事故など、会社は事故原因は全て社員、メーカー、協力会社、利用者にあるとし、対策を押し付けてきた。また、社員に休日出勤を強要し、運輸系統の社員運用を変更し、更には新人事・賃金制度を導入し、社員を使い勝手よく運用し、社員同士の競争を煽り立てた。

労働者にとって真の安全とは、労働者と乗客の命を守ることであり、全ての闘いが安全確立の闘いであり、会社に物を言い、時にはストライキで安全確立の闘いをつくり出した。その過程で組織が強くなり、組織拡大を勝ち取った。

我々の闘いと組織を圧殺するため、会社・国家権力はあらん限りの弾圧を加えてきた。会社・国家権力は、暴力事件や窃盗事件をデッチ上げ、京力さん、石川さん、加藤さんを不当にも解雇した。我々は仲間の解雇に抗議し解雇撤回を勝ち取るため、ストライキで闘った。仲間のために闘うのが労働組合だ。

2011年3月11日の東日本太平洋沖地震により、福島第一原発は爆発し放射性物質を漏洩するというあってはならない大事故を引き起こした。未だに事故の収束のめどが立たず、原発の安全神話が崩壊したのにも関わらず、葛西会長は原発継続を主張している。J R 東海に建設指示が出されたリニア中央新幹線の電力確保をもにらんでのことであろうが、「原子力を利用する以上、リスクを承知の上それを克服・制御する国民的覚悟が必要」とは反社会的発言である。これに対し、自称責任組合・J R 東海ユニオン＝養殖組合は何の反応も示さない。これが現段階における一般的な労働組合の態度なのであろう。

我々は、新たな歴史をつくり出す。真の安全確立のため闘う。憲法9条を守り広め、戦争のない世界を目指し闘う。えん罪のない社会を目指し闘う。脱原発・反リニア・子供たちに自然を残すために闘う。そして全ての労働者を御用組合から解放し、組織拡大に結実させる。

以上、決議する。

2011年6月19日  
J R 東海労働組合  
第26回定期大会